

シンポジウム「まちの快適空間づくりから考える公共交通」まとめ

～登壇者からのコメント～

公共交通及び「まち」の活性化の一助となることを意図して、「まちの快適空間づくりから考える公共交通 ～都会の進化と地方の反撃～」を開催し、多くの皆様に関心いただき、ご参加いただいたところです。しかしながら共有したい情報を伝えきれず、登壇いただいた方々、ご参加いただいた皆様には不足感を感じたところもあると思います。（アンケート結果については、別添でご確認下さい。）

そこで、ごく限られた項目についてはありますが、開催後にあらためて登壇の方々にコメントをお願いしましたので、以下に掲載します。

登壇の方々、ご参加の皆様には改めて感謝するとともに、少しでも、今回のシンポジウムが今後の公共交通・まちづくりを進めるうえでのヒントになれば幸いです。

登壇の方々からは次の項目でコメントをいただきました。

基調講演者

- ①各登壇者の発表内容について（印象に残っていることなど。）
- ②本シンポジウムについての感想
- ③今後の公共交通・まちづくりに向けたメッセージ

座談会登壇者

- ①堀先生・川西先生の基調講演について
（印象に残っていること、自らの業務に照らし、気になった点など。）
- ②参加してみた感想
- ③今後の公共交通・まちづくりに向けたメッセージ

I CH I B A N S E N / nextstations 代表取締役・千葉大学講師

川西 康之 様 より

①各登壇者の発表内容について

公共交通や公共空間に関わることの大変さや苦労を再認識しました。行政や鉄道・バス会社等の努力や想いが、利用者や住民に十分に伝わり切っていない現実も感じました。その役割が必要だと思います。

②本シンポジウムについての感想

大変たくさんのお客様にお集まりいただき、驚きました。平日昼間でしたので、関係者が多かったように思いますが、運営者側と利用者側が半々になるような機会があっても良いですね。

③今後の公共交通・まちづくりに向けたメッセージ

エコな電気自動車や自動運転車が当たり前になりそうな未来、公共交通の役割とは「色気のあるまちづくり」を支援することに他なりません。環境に優しいとか理屈や費用対効果とか数字ではなくて、公共交通がオシャレで格好良い色気こそ、今後大事になると思います。





①堀先生・川西先生の基調講演について

【堀先生】

街を訪れた人は、身近なものによって丁寧に迎えられた、誘われたと感じることが大変重要だというお話は、駅や駅前広場といった公共交通の結節点でも非常に重要と改めて強く感じました。具体的に成田での事例等をお話いただきましたが、とかく我々は、駅や広場を作る際も規定やバリアフリーや流動性等の技術的な要素を重要視するあまり、利用者が心地よく感じるデザインや空間を提供出来ていたか等、講演を拝聴しながら自問自答しておりました。

【川西先生】

利用者や住民の目線を徹底的に追求し、それを施設のデザインや設計等にデザイナーとして活かす事例をお示しいただき、第三者的な立場の専門家による関係者間の取りまとめの重要性を感じるとともに利害の異なる関係者間の調整の難しさを改めて感じました。

②参加してみた感想

パネルディカッションでの意見交換等は出来なかったものの登壇者全員、街づくりにおける公共交通の重要性は強く認識していることを互いに確認出来たと思います、また来場された方々も様々な事例から今後の公共交通や街づくりの重要性を強く感じていただけたと思います。

ただし具体的に進めるためには、地域の事情や参加した関係者の利害関係等もケースバイケースのため、取りまとめは困難を伴うと思いますが。

③今後の公共交通・まちづくりに向けたメッセージ

様々な関係者（住民、利用者、公共、民間等）がいる街づくりでは、必ず将来や地域特性を見据え、関係者全員であるべき姿を描き、各々の立場や役割を活かして実現させることが大変重要です。ポイントは、関係者の意見を集約するだけでなく、専門的な見地も踏まえながら実現性も考慮しつつ取りまとめを行うことが今後の流れの重要であると思います。



①堀先生・川西先生の基調講演について

【堀先生】

堀先生のお話しでは、冒頭の「景観デザインにセンスは必要ない。景観デザインには理論・法則があるので、それに当てはめていけば、自ずと魅力的かつ利用者にとって使いやすいものになる。」「“一目瞭然”や“百聞は一見にしかず”の言葉どおり、そのまちの景観を見た瞬間に、そのまちの印象を評価・判断する。そのまちの景観が良くないと、そのまちの印象も良くないものになってしまい、再び訪れたいと感じない。」とのところに感銘を受けた。

【川西先生】

川西先生のお話しでは、「公共空間のデザインは、使う人の立場で考えていくことが必要で、決して自己の芸術的欲求を満足させる芸術作品ではない。」とのところに共感を覚えた。

景観や公共空間デザインを評価するのはあくまでも見る人・使う人であり、そうした第三者に良く見せるための法則があるところは、コミュニケーションスキルに通ずるところがあると感じた。また、景観や公共空間デザインは、施工主が自分の土地に自分のお金を投じて勝手に作るものではない以上、「お金を出す人」「作る人」「使う人」等の関係者の理解・合意が不可欠であることを改めて認識した。

②参加してみた感想

とにかく時間に追われたという印象。もう少し発表内容を整理する必要があると感じた。

③今後の公共交通・まちづくりに向けたメッセージ

よりよい公共交通・まちづくりには、関係者間の合意形成や関係各所との協働が不可欠。それぞれに思いや思惑があるので、合意形成や協働には時間がかかるのが現実。目的・コンセプトといったコアな部分をしっかりと共有し、そこをぶらすことなく進めて行けるかがポイントになると思う。その点では地域に強力なリーダーシップを持つ人がいると進めやすいと思う。

(例：元気！市川会田平会長)

昨今の都市部におけるまちづくり（再開発）は、どれも同じように見え、特色もなく面白くない。長い年月をかけて熟成されてきた「まちの個性」「雑踏」「におい」（特に飲食店街）も大切にしてほしい。

(例) 築地場外市場、八重洲、有楽町ガード下、アメ横、立石飲み屋街、
吉祥寺ハモニカ横丁、 等々

宇都宮市副市長 吉田 信博 様 より



①堀先生・川西先生の基調講演について

両先生の講演を聞いて、これから整備するLRTについて、車両はもちろん、電停や軌道、道路、さらには沿道も含めたトータルデザインに取り組み人を「誘って」乗りたくなるような、利用してみたくなるような、そして、デザインの力で分かりやすいものにすることが重要と感じました。

さらに、LRTだけではなく、バスやデマンドタクシー、自転車等とも一体的に、交通全体として、利用者の目線から利用しやすいデザインにすることが必須と感じました。

②参加してみた感想

自ら取り組んでいる公共交通施策について、客観的かつ多角的に見る機会となり、大変有意義な会となりました。

③今後の公共交通・まちづくりに向けたメッセージ

車社会が過度に依存するようになってしまった地方都市では、公共交通をほとんど使わないライフスタイルが定着してしまいました。まちもそのようなライフスタイルに合ったまちに変わりつつあります。そのことが市街地での滞在時間の減少や飲酒をともなう飲食の減少等によって、まちの賑わいや活力を低減させる原因の一つになっています。車への過度の依存から脱却し、便利な車と便利な公共交通が共存して誰もが移動しやすく、移動手段の選択肢が多くて住みやすいまちを市民に提案し、その提案をわかりやすく伝えることが重要と考えています。

しかし、前述のように公共交通をほとんど使わないライフスタイルが定着してしまうと、車とともに適度に公共交通も使うライフスタイルを想像することは難しく、その良さを伝えることの難しさも実感しているところです。市民のみなさんに、わかりやすく、そして丁寧に伝えるため、今後ともシンポジウムに参画された公共交通に関心のある皆さんからのご支援をお願いします。

横浜市住宅再生課担当課長 鈴木 陽子 様 より



①堀先生・川西先生の基調講演について

【堀先生】

「人間は誘われるのが大好き、ていねいにお迎えされるのが大好き」という視点が非常に参考になりました。何かをつくる際に、目的や必要な機能についてはしっかりと議論を重ねるのですが、使う人にとっての第一印象に気を配ることはなかったと思います。企業や住民の皆さんとまちの交流拠点を運営していくにあたって、実践していきたいです。

【川西先生】

駅が、人が集まり交流の場となりうることを事例で多数ご紹介いただき、まちづくりにおける駅の可能性を改めて認識しました。日々の業務において、まちの活性化には、人々が集いやすい場に、特定の目的がなくても交流できる空間を確保することが重要であると感じています。交通関係者の皆様とその思いを共有していくことが鍵であると感じました。

②参加してみた感想

交通関係者の視点に、住宅地の再生というまちづくりの事例が馴染むのかどうか、参加前に感じた多少の不安はすぐに払拭されました。まちを活性化したいという思いを皆さまと共有できた有意義な時間でした。

③今後の公共交通・まちづくりに向けたメッセージ

少子高齢化の進展に伴う様々な地域課題に対応していくには、様々な部門がこれまでの視点にとらわれず連携していくことが大事だと思います。今回のシンポジウムがそのきっかけとなりますように！